

平成14年度第2回 全学FD アンケートのまとめ

回収：113名分（回収率：73.9%）
（参加教官153名：総長及び講師を除く）

1. 「（全学教育）教養教育科目」というテーマはFDの課題として、的確でしたか？

- 的確だった 64名（56.6%）
- どちらとも言えない 37名（32.7%）
- 的確でなかった 11名（9.7%）
- ※複数回答（的確だった・どちらとも言えない） 1名（0.9%）

2. 講演「新しい時代の教養教育を考える」の内容は意義のあるものでしたか？

- 意義があった 42名（37.2%）
- どちらとも言えない 41名（36.3%）
- 意義がなかった 29名（25.7%）
- ※複数回答（意義があった・どちらとも言えない） 1名（0.9%）

3. 問題提起は的確でしたか？

- 的確だった 45名（39.8%）
- どちらとも言えない 46名（40.7%）
- 的確でなかった 20名（17.7%）
- ※複数回答（的確だった・どちらとも言えない） 1名（0.9%）
- ※未回答（空白） 1名（0.9%）

4. 各教養科目の実情報告は、問題点の把握に役立ちましたか？

- 役立った 62名（54.9%）
- どちらとも言えない 42名（37.2%）
- 役立たなかった 9名（8.0%）

5. 全体討論は、教養教育科目の授業改善のための課題の整理に役立ちましたか？

- 役立った 57名（50.4%）
- どちらとも言えない 31名（27.4%）
- 役立たなかった 17名（15.0%）
- ※未回答（空白） 8名（7.1%）

6. 教養教育科目の授業改善のために、特に重要と思われる点を2つだけ箇条書きにしてください。

教員のFD意識の向上、そのための情報宣伝、議論 / 一部の教員に押しつけない。全学的問題という認識の徹底 / 講義目的の明確化 / 学生の能力と意欲 / 教養教育の負担 / 学生数の多荷の改善 / どのような卒業生を送り出すための教養教育を行うか / 授業改善のために、教員に「余裕」を与えて欲しい。少数の教員に負担を負わせないことが重要 / 現行の教養教育は「失敗」だと考える教員こそが教養教育に参加するシステムが重要。最初の演者が言及されたアンケート結果によれば理系の「専門」教員 / 教養教育科目の意義について、教官と学生双方の認識を徹底させることが必要 / 実際の授業については、その内容や授業の仕方や評価などに工夫が必要（決まりきったものにな

ってしまえば逆に興味が薄れてしまうから。) / 学生の評価を参考にして授業する / 学生の立場に立った、学生に興味を持たせるテーマ / 内容を設定する / 全学教育に関する議論について、各部署に情報をもっと流すこと / 学生のモチベーションを高めるために、設備を充実させ、教官は授業のためにもっと手間をかける / コア科目は半期分のプログラムを作った上で、相応しい担当者をつけるという仕方が良いのではないか / 実験的な授業(モデル授業)を試みて評価し、一般化できるものをひき出すということも大事ではないか / 私は他大学出身でしかも大学教育の経験が未だ無い者です。(来年度が初めてになります。) ですから、6及び8に関してはご容赦ください / 学生が易きに流れるというネガティブな面をとらえるのではなく、許容可能な限り人気科目は多く受け入れる、すべて選択にすべき / 執行部、大教センターが良い案を考えるべきだ。これが出来ていなかった / 文学について、漢字が読める、新聞が読める程度を目標にする講義は学生迎合であり逆働き。漫画、インターネット時代に文学の知識は学生の頭に入らない。大江健三郎を講師に呼び、難解でも文学について熱き思いを語らせれば感銘を与えることになる。旧漢字が読めるかどうかは些細なこと / 新入生の勉学に対するモチベーションを与えるには少人数の教育を行うことが必須である / 教官自身の全体観の確立(他の学問分野との比較において) / バランス感覚(教えたことと効果のはざま) / 教養部復活の可能性を含めた制度の再検討 / 学生の自主性を高める教育 / 大学での教育に対する学生の失望感を感じる。特に六本松で失望した学生が多い / 教養教育は現行のままでは無理がある。要改正 / 分担で教育する講義内容に一貫性を持たせるべき / 学生の生の意見を聞きたい(教養教育科目の担当経験がないので!) / 数人の先生で講義を担当するのはよいが講義に一貫性がなくなるのでは! / 全学部(全部局)の教官が全学教育へ関わるべきである / 教養教育への貢献を正当に評価すべきである / 難しいことをわかりやすく指導する教官の心がまえが重要である / 教室の設備の充実 / 清水教授の提言を是非実現して欲しい(入学後に学部変更を認める→少数の学生で結構です)。学部変更が認められれば、かなりの学生が意欲を出すように推測しております / コア代替科目を文系以外の学生にも開放すべきである / コア科目を複数の教官で担当している場合、担当者会議をすべきである / 学生自身の学習意識向上に努力が必要と感じた / 学生自身が講義する側に参加させる(例えばコンピューター等の支援部分を分担。講義の手伝いをしてもらい、学生の受けたスタイルに変えてゆく) / 授業評価を参考にするべきである / 担当者間の密接な連携による授業構成の構築 / コア科目立ち上げに全学的な参加の要請で入れ替え / 学生の学習意欲を向上させるための具体策 / わかりやすい授業の実施 / 学習意欲の向上 / 教授法 / 学生も今回のFDに参加させるべきだった / 異分野の教養教育科目への興味を如何に引き出せるか(これが難しいが) / 科目の中での授業内容の整合性をとること / 教養教育科目を大幅に減らし、専門教育の単位数を増やす / 起業家育成のためのコースも必要なのではないか / 個人がめんどくさくなって、ブツ切りの講義を行わず、難しいことを行わない / 専門をしゃべらない。各人がわかりやすい講義を心がけること / 教科内容の検討(コア科目の内容はいずれも広すぎるのではないか?) / 学生のレベルを十分把握して講義内容を検討する(複数の教官が担当する場合は相互に十分検討を行う) / マスプロ講義と少人数講義のバランスを良く考えたカリキュラムを準備する。マスプロ講義と少人数講義のリンクをうまく考える / 教養教育の目的を目確にした上での議論でないと先に進まないと思いました / この成果を誰が判断して、実行に移すか明確でない / 各科目の魅力を如何に引き出して講義するか。例えば科目と社会問題との係わりを理解させる / 教官の学問指向や思想が反映するような講義時間が必要 / 講義の受講人数は100名以下、望ましくは50名にならないか / Program Manager / Directorという考えかたは重要と考える。責任者を明確に / 学生が興味を持つテーマをサーチすることも必要。その希望も取り入れた講義を編成可能ではないか / 教養教育科目は社会人にも公開講座にして、同じ部屋でfreshmanと社会人が同席して受講させる。社会人は本当に興味ある講義を受講してくれることで刺激にもなる / コア科目の意義を再検討 / 学生の授業に対する理解度と教官のアイデアとのギャップを埋める / 専攻を変えることは可能

か？ / 教養教育は専門教育への橋渡しとしてぜひ必要だと思う / 授業評価で、例えば授業開始が守られていない、休講が多いなどはメソッド以前の問題だと思う。これらの項目が数値が高い教官には、ぜひ警告を出すべきである / 教養教育を担当する教官にきちんとした理念と目標を浸透させる / 授業をブツ切りではなく、一人の教官が12~14回の講義を行って、理念を一貫して教育する態勢を整える / 教養教育に貢献している教官に対して、正しく評価する方法を考えるべき / 九大の教養教育に関する実質的責任組織HQは何か？ / どのような学部学生を卒業させるか、焦点を絞る（大学側の弁） / 学生の弁はどうか？時代の流れ、社会の要請は何か？その解が不明。だから本問題の解決策は多様で本会議では結論は出ないだろう / プログラム責任者を決めて科目の見直しを行う / 授業担当者間の意志等の相互確認 / 学生への動機付け（何故必要なのかの十分な説明） / 学生の達成度の学生へのフィードバック / 教養科目の目的を明確にすること / 目標達成度を把握できるように工夫すること / 法学入門などを選択肢に残して欲しい / オムニバス方式はなるべく少なくした方がよい / 1クラスあたりの学生数を減らす。（教室収容可能人数よりも受講者数が数倍というのは異常）。マスプロ化は学問の自殺行為と考える / 学生の知的好奇心を刺激し、学問へのモチベーションを持ってもらうことが教養教育の目的と考える。そのための方法は教師の数だけあろうが、教師の顔が（肉声が）その好奇心を引き出す。人間的な触れ合いをなくす方向には進んでいくべきでない / 授業内容の精選 / インタラクティブな授業 / 教官の意識改革 / 教育への評価の向上（人事に関わる評価における教育への寄与を研究と同等以上にすること） / 題材選択の自由さの保障 / 九州大学特有の問題として、入学当初の学生と教官とが共に過ごせる時間が少ない。オフィスアワーを制度化する必要があるのではないかと。 / 科目の内容や編成、教育方法というより、学生の学習意欲、教官の教育熱意といった要素が強く作用するのではないかと。とりわけ学生の学ぶ意欲が低いことの根本原因が何なのか、考えてみる必要があるのではないかと。むしろ4年間全体を教養教育プロセスと考え、専門性は大学院（プロフェッショナル / スクールも含めて）に進んでから養うというシステムに移行した方がよいのではないかと考える / 学生の学力低下、多様化に対して対応できるシステムづくりと明確な方針 / 時代に対応できる教官の意識改革 / 授業担当者の割り当て（旧教養部教官の分属先のノルマ）方法の改善 / 制度的には色々のことが出来るでしょうが、実質的にはほとんど意味がないと思います / 論理的問題に関しては、あるレベルに達していない学生を落第させること / 価値には色々なものがあること、だから答えが一つには決まらないということ、自分で考えることが重要である、ということを経験させることが重要でしょう / 担当者相互のコミュニケーションの欠如が問題だと思う / 担当者間の事前打ち合わせ、担当者会議の充実 / 専担で担当できるように努力する / 講義（内容）の改善システムの整備。（ex. アンケート結果などを踏まえて講義の改善を図る責任者を部門ごとにきちんと定める、など） / コア教養科目の教科書づくり / 教養教育への動機付けを与えるシステムを考えて欲しい。教科書作りが業績評価でカウントされるのならそれも一案 / 教養教育科目の授業体験の少ない教師に集中的に授業を担当させる / 教養教育として、専門科目特殊講義Bのごとき講義をすることがないよう徹底する / 偏差値入試をやめ、卒業を難しくする。学生の意識改革（カンニングや対プリなど）を行う学生の意識、退学処分にするなど・・・、そういう大学共同体全体の改革の中に授業の評価etc. が位置づけられるべきである。「学生の視点から」（総長のことば）というスローガンは一人歩きし、大学は学生に対するサービス業となってしまう。これは大学でしょうか？ / 教養教育の九大での位置、意義の明確化 / 教養と知識は異なるという認識 / 教員の意識改革 / 「感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起させる授業」を組み立てるにはどうすればよいのだろう。〈自己の問題として〉 / 〈教養〉という概念がきわめて曖昧であるので、九州大学として定義する必要がある / 学部側からの教養教育の存否に関する本音をお聞きしたい。 / 授業評価の結果をいかに授業改善に役立てるかという方法論を確立する / 問題のある授業（教官）については、早急に調査・改善をすべきである / 何を教養教育の目的とするかによって「改善」の内容も変わるが、今回のFDでは目的が明確とな

っておらず、記載不能 / 学生がレベルアップしたかどうかを評価する必要がある（他者によって）
 / 上述に関して、責任を追及できる態勢をとる / トップダウンではなく、ボトムアップから改善
 がはかられるべき / 大学全体としての教育理念の確立に根ざした議論 / 「全学」教育体制の確立
 （教官ロード） / 各学部学科での専攻教育科目との連携を密接にし、社会が何を求めているかの立
 場からの議論 / 科目担当の先生の意識（教養教育科目とは・・・）と受講学生の意識向上策の検討が
 必要 / それぞれの部局あるいはWGにおいて教養教育とは何かということについて議論が必要だと思
 う / コア教養科目が本当に成り立ちうるかの検討 / 担当者の再教育 / 人材育成の視点からの教
 養教育を考えること / Teaching ではなくて Learning の視点、考えさせる、試させること、是非
 取り入れて欲しい / 教養教育科目の授業を各部局、平等に行うような体制を作る / 授業評価（他
 の教官による） / 少人数化、一貫性 / 講義科目へのTAの活用（現行では演習・実験科目のみ使
 用可） / 選択の自由度を増やす / “九大はどうあるべきか” “その中で教養科目はどうあるべき
 か” をまずはっきりさせる / 議論がかみ合わない事あり、司会はちゃんと整理して議論をまとめて
 欲しい / 授業公開の制度化 / 学生への学び方のオリエンテーションを単位化する / 教養教育は必
 要だがコアは止めるべき / 学生、教師双方に授業の目的を明確にさせておく / 内容のわかり易さ、
 レベルの高さを求められる授業は、改善のため、アンケートの結果を教師本人に通知する / コア教
 養科目の方法（ブツ切り）は、ナンセンスであることを再確認した（学生の不満も多い） / 少人数
 ゼミのような、少人数クラスを増やさないと教養教育は無意味である / 全学の教官がなるべく多数
 参加すべき / 教養教育の大学教育における位置づけの明確化 / 科目の担当責任者が全体のプログ
 ラムをつくる / 教養教育を入学直後に集中させる意味 / 理由はないと思われる。 / 高校で生物を
 学んでいない医学部学生に対する対応など教養以前の常識をまず学ばせるシステムが必要ではない
 か。これは大学院レベルでも問題 / やる気のある人間が改善をすすめる上での自由度の確保（＝規
 制緩和） / 40代の若手、中堅による改革 / 明確な到達目標の設定、「分かる」授業への創意工
 夫、各科目のプログラムの統一性 / 教員に対する「教師」としての意識づけ、各教員の「教師」と
 しての資質の客観化 / ボトムアップの場を作る必要がある / 学生に教養教育が必要であるとい
 うことを十分理解させる工夫を確立する / コア科目も、いくつかのチュートリアルの授業に変え、学
 外実習（ボランティア）や教養人（社会人）を積極に取り入れる / コンセプトを統一する / 少人
 数教育を工夫する

7. 今回のFDの企画全体を通して評価してください。

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| <input type="checkbox"/> たいへん満足している | 6名 (5.3%) |
| <input type="checkbox"/> 満足している | 42名 (37.2%) |
| <input type="checkbox"/> どちらとも言えない | 31名 (27.4%) |
| <input type="checkbox"/> 満足していない | 20名 (17.8%) |
| <input type="checkbox"/> ほとんど満足していない | 7名 (6.2%) |
| ※複数回答（どちらとも言えない・満足していない） | 1名 (0.9%) |
| ※未回答（空白） | 6名 (5.3%) |

8. 今回のFDを経験なさり、改善すべき点として、お気づきのことがあれば、ご教示ください。

全体討論にフリーディスカッションは無意味 / より詳細、個別の情報提供と主催者側の戦略が必要。
 / 会場、特に換気 / 理念よりも具体的な話の方が得るところが多かった / 全学教育に直接タッチ
 していない教員にこそ、全学教育の現状を伝え、意識改革を促す「FD」を行って欲しい / 意見、
 グチの言い放しに終わらないようにして欲しい。これらの意見は評議員等に届くのか？ / 教官の
 一部だけが参加したが、全員が順番にこうした研修を受けるべきではないか と思った。現状の問
 題点や全体の関係 / つながりが分かって、参考になることが多いと思う / 全体討議には貴重な意

見もあったが、討議にまとまりがなかった / 教養教育の改善については定まった解答があるわけではないが、絶えず問い続けなければならない課題だと思う。この点について、大学人全体がFDに関わる機会を増やしていく必要があると思う / 授業改善のスキルを身につけるような研修も必要ではないかと思いました / 私は他大学出身でしかも大学教育の経験が未だ無い者です。(来年度が初めてになります。) ですから、6及び8に関してはご容赦ください / FDは重要であるが、ホドホドにが大切。一方では、学生指導や研究、教育評価に高い生産性をあげている。これに比べて、FDはそれほど重要な時間とは全く思われない。研究がすでに犠牲になっているのは元も子もなくなるだろう / これだけの数の教官を一日拘束して行う以上、講演部分にはもっと工夫が欲しい / 教養教育科目に関連が少ない教官については、もっと判りやすい概説の説明があった方が良い。 / 主旨を明確にして欲しい / 授業内容が報告だけではよく見えない / 方向性をはっきり持たせて対論すべき / FDに対して、九大としての主体性 / 独創性を持つべきである / 文系と理系の教官で、FDに対する考え方が大きく異なっている / 上からの押しつけでない九大独自のFDのあり方を考えるべきだと思う / 教養教育への認識は深まったものの具体的な改善に繋がる様なFDとなったか疑問である / 専門性にこだわっている意見が多かった。 / 18才の学生の成長を助ける気持ちで取り組むことが重要。 / より具体的な授業方法の指導をする講習会にして欲しい / 全体討議はパネルディスカッションとすれば良かった / 新キャンパス500人の講義室には反対である。不要 / 活発な議論の議事録は取られているのだろうか? / 学部の講義で、学生に評判の良い教官の講義を見学体験する必要有 / 受講者数のアンバランスをどのように解消するか? / なんだかガスぬきみたい / 無関係(?) な者としての参加による無駄な時間を過ごした観が強い。的確な動員をして欲しい / 今日の議論はどこにすい上げられるのでしょうか? / 討論の結果が何にも反映されないのは無意味

/ 教養教育のあり方について全学のコンセンサスが得られるのか、また、得なければならないものなのか判断しづらい / 自分について考えれば、大人数相手の教育(講義)が能力的にできるのか、能力不足を感じている。 / このようなFDは廃止すべき、時間のムダ / 各部局、各学科でFDをやった方が効果的です / 学生に学ぶ力を身に付けさせることに尽きる / このアンケートを、何に使い、次回にどう生かすのか? or 生かしたのか、feed back して欲しい / より焦点をしばったFDにすべき / もっと小規模で、短時間でやって欲しい / 改善から少しはずれるが、文科省の言うなりでは画一的教官をつくることになる。ボトムアップの必要性を感じた / コア科目に文系、理系の配分に偏りがある / 教育へのインセンティブをどのように与えていくのか? 評価法が必要 / 初等教育、中等教育そして高等教育を通した一貫した教育の到達度を作成することが最優先課題ではないかと考えます / その後高等教育におけるFDを通した効率の良い方策を考えることは意義深い / 4年間(6年間)の中でどこでも教養科目を受講できるようにできないか? / アンケート集計結果の正確な解釈はどこまで可能か? / 九大としてのスタンスと教養教育の位置づけが結局不明確なまま終わった感はあるが、大変有意義であった / FDの結果および成果の公表(follow up)、情報の開示 / 具体的な対応をどうするかが必要(フィードバック) / 7)の質問の前にコア担当教官のみ、先に検討会を開き、意見を公開して欲しい。それからこの会議を開いてもいいのではないか / 学生のバックグラウンドの把握 / 他の科目や教官との相互確認、教育目標の再確認 / 全体討論はトピックを絞るべき、発散してしまう / 討論の時間でテーマが散らばってしまって結論が出ない。 / 進行役の方がうまく誘導すべきだった / “動員”は有効か? 研究時間がまたまた減る / 今回のFDの最終目標がどこにあるのか。主催者が未整理のまま開催されたことが、全体討議の司会の消極的態度に繋がったのではないか? 議論の整理役としての司会進行が行われなかったことが残念 / 成果の割に時間が長い / 問題提起が明確でなく、焦点を絞った方が良い / 全学FDは、教官全体に浸透するシステムになっていない。主要な点はフィードバックする必要がある / 教育というものの難しさを痛感した / 学生に「教える」ことが殆ど出来ない。「学問」は自分で学ぶもので

あるように教官に「教え方」を教えることは出来ないでしょう。できてもそんな先生はつまらない先生でしょう。FDは無意味だと思っています / 個別教科を対象として全学FDをやる必要なし / 全学的FDは教育のあり方等に対処する / 本当に意識改革の必要な(部局の)人々が召集されているのか疑問 / 優れた講義のいくつかをビデオにとって見せたりする方がずっと役に立つのでは? / 結論の出ない検討会は無意味, いつまでも出発点ではいけないのでは? / 参加した教官に, 「自分の授業とFDとの関係」について, 1ヶ月以内にレポートを課す / 全員参加させるため, 同様のFDを年数回に分けて実施し, 点数制にする / 上手な授業を具体的に示すなど, 具体的な授業改善に役立つ情報が欲しかった / 文字どおり〈全学教育〉となるように, 全学の教員に教養科目の授業を担当していただきたい / 総長は最後まで出席していただきたい / 講演時間を守って欲しい / 優れた講義の例を紹介する企画があると役立つと思われる / 報告者に事前にレポートを準備させてはどうか / 何を議論するのかを明確にする必要がある。言いつばなしでは成果なし / 議論されたことを実施へと結びつける仕組みを明確にする必要がある / 特別講演は不要。個別の, つまり九大の問題に絞って講演 / 討論した方が良い / 討論では意見を出させるだけでは意味がない / 参加者からの質問に対して明確な答え, 結論が聞かれず消化不良です / 全学教育(教養教育)科目に関する先生方の認識を高めるためには, このFDは有効であった / キャンパス内でやって欲しい / 全体討議での内容は全教官へ周知する / 内容(テーマ, 講師)を再考すべき(言い訳ばかり) / 人数を部局に割り当てる講演会はやめるべき(内容が良ければ人は集まる) / 全体討論が言いつ放しであり, 〈授業の改善〉からは離れてしまっている。テーマを限定した運営を望む / 最後に討論になった, おもしろい / 長すぎる。2時間が限度 / 動員, 割当はやメヨ / 問題点の所在が明らかになったことは評価できるが, その解決法はみつからない(解決法は無い?) / 現在の大学の学生の学習意欲の無さは, 高校までの教育の問題点の積み重ねの結果ともいえる。授業態度の悪さは年々ひどくなる一方だが, それに対しての有効な改善法が考えられるのかは疑問。教師の側の反省が必要なのはもちろんだが, 学生に対しても, アメとムチなどの対策が必要だと思う。授業を変えるだけで解決できるのだろうか? / 特定の人(問題提起)の提言は適当でなかった / もっと授業改善に役立つ取り組みを考える必要がある / 全教官が参加する(出来る)ように回数を増やす。 / 昼食時間, 休憩が長すぎる, もっとテンポを上げて進行すべき / 時期を考えて欲しい。この時期にやるのはなぜ?? / 自己満足に終わっていると思う。具体的な改革に結びつけなければ意味がない / 有本さんのような「エライ人」を呼んで話をしてもらっても実際の改革に寄与するところは少ない / 授業評価アンケートの結果は本人に明示し, 有効にフィードバックすべし / 学生が意欲的になるための第一歩は, 教員が自分のやっていることを喜々として彼らに伝えること, 教員がその天職と信じていることを, それを楽しんでいる姿をそのまま学生に見せることではなからうか。教員自身が自分の授業に関心を持っていないければ, その授業を受ける学生がそれに関心を持つことはないのでは? / 日本と欧米の基盤にある違いを, 全学FDに反映させる工夫が欲しい。(まるでアメリカのまねではないか?) / 学生代表みたいな人達を参加させては? / 前半はあまり必要ではなく, 後半のみで良いと思われる / 言いつ放しにしない / 議論が実際の改善に結びつく道すじが見えない

その他

講演は一般的な内容でしたのであまり参考にならなかった / 各教養科目の実情報告は, 役立ったものとそうでないものがあつた。科目によっては, 適切かつ組織的に対応していることが判ってよかった / 「教養教育科目」に携わっていない者について, 事前に問題提起なりの教育が欲しかったと思います / 教育問題を考える場を作ったという意味で問題定期は的確であった / 教養教育がブツ切りのコウギであることが良く判った / FDの課題としては, テーマが漠然としていた / 「FDが必要である」という立場に立てば, FDの課題としては的確であった / 「教養教育」をFDによ

って向上できるという立場に立てば、意義があった / 少なくともある部分は、実情報告が問題把握に役立った / 問題（改善）が多すぎて、意見もバラバラで決して解決できないだろうと思った意味で全体討議は役立った / FDによって教官の教育能力を上げることが出来るという立場に立てば、今回のFD企画全体には満足している / 実情報告において、個人の話に終始した人がいたのは残念。全体のことを話さなければ意味はない / 講演において、米国の教養教育をモデルとして未来の大学を語るためには、既存の学部組織（文・法・工・医・etc）の構造が大きな障害となっている。しかし、発表者はこの視点を欠き、実際の大学構造内から考えていたようには思われない